

組合活動の
創造想像
レポートの紹介

2030年に私が執行部をやっていたら、絶対にコレをやる！

Point
1

イベント内容の要約

最近、現場知フォーラム※にご登壇いただいたゲストの方々にパネリストになっていただき、私たちを取り巻くさまざまな課題に対して、「自分ならこうする」という持論を展開していただきました。

パネリストはアトックス労働組合の鳥居大樹氏、エスアールエルユニオンの大澤彰氏、エステュニオンの鈴木彩子氏、オートテクニックジャパン労働組合の皿井倫敬様氏。

現場知フォーラムではこれまで、それぞれ自組織の課題を乗り越えようと取り組んだ内容を発表いたしましたが、今回は視点を変えて2030年に向けて「こうやっていくべきじゃないの？」 「自分だったらこうする！」といったアイデアを共有してもらいました。テーマは「2030年、私たちの会社は今では全く想像もできない働き方になっていました。さて、どんな働き方になっているでしょうか？」「2030年の全く想像もできない働き方のなかで、みなさんはどのような組合活動を行っているでしょうか？」の2つです。ユーモアあふれるアイデアやパネリスト同士の掛け合いなどで、テレビ番組のような笑いのあふれる企画になりました。参加者の皆さんにも2030年に向けて自分たちならどうするかをディスカッションしていただきました。

※現場知フォーラムとは、異業種の労働組合役員が集い、それぞれの経験と発想を集結させ創発を生み出す場です。「現場知」は、j.union株式会社の登録商標です。

Point

2

今回のイベント企画の背景や目的は？

今回の企画は2030年に向けて、何を備えていくべきか、どんなことを考えていくべきなのかを持ち帰ってもらい、新たな活動に取り組むヒントにしていただきたいと考えました。

自分たちの問題は自分たちで解決できるものだととらえて、未来のために今の課題を先送りしないで、すぐに取り組もうと思ってもらいたい……ただ、それらを専門家に話をしてもらうのではなく、参加者の目線に近いところで提案ができるように、過去の現場知フォーラムで取り組み実績のある方にお声がけしました。

また運営側では、楽しんで参加してもらえる場にしたいと考え、途中で司会が入れ替わったり（若手司会者から中年司会者に代わることで時間の経過を表現）、サウンドエフェクトを入れたり、チャットにつぶやきを随時書き込むなど小ネタを盛り込みながら進行しました。

Point

3

今回のイベントで参加者のみなさんが得たことは？ (参加者の反応や、意見、創発など)

2030年の働き方について、パネリストからは「水商売（水をろ過する技術を応用して水を販売）」「住んだら健康になる街の実現に携わる」「会社に籍を置きながら、友人と地元で起業」「部屋ごと職場に移動できる技術の実現」など現実的なものから夢のあるものまでを発表いただきました。

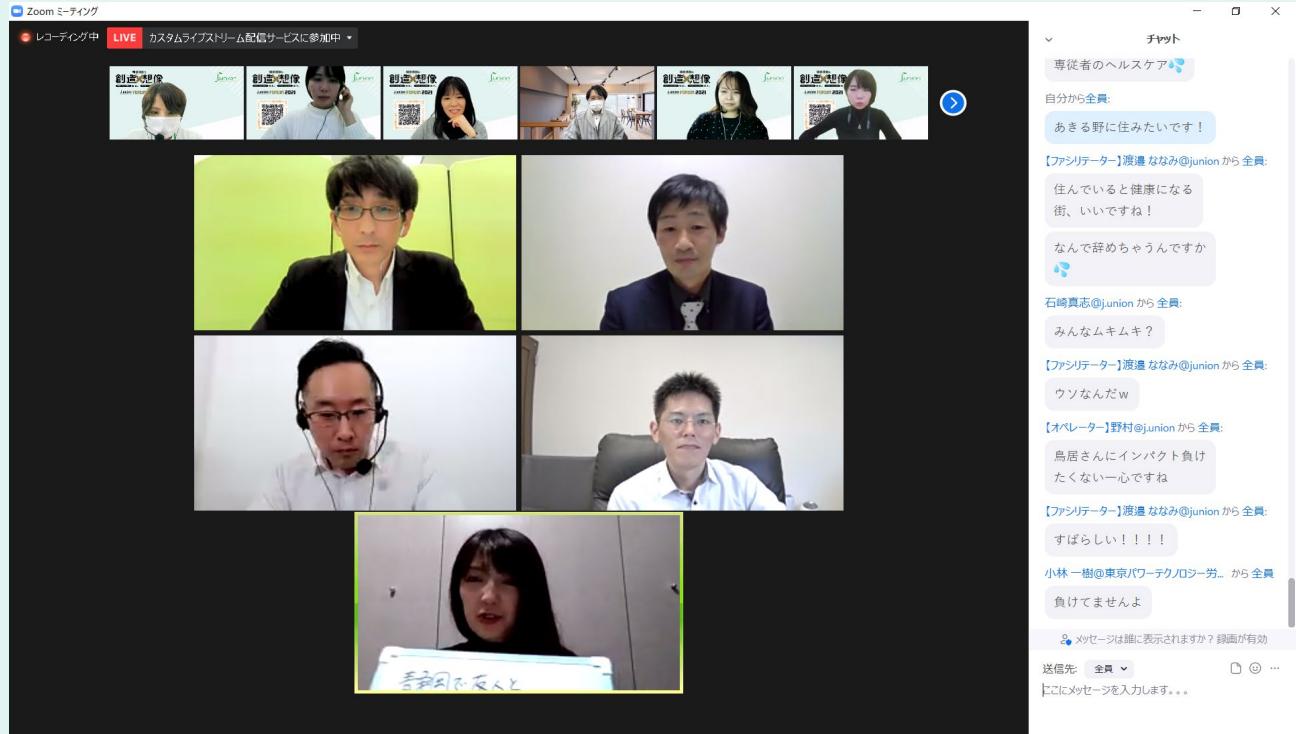
また2030年の組合活動においては「労働組合法が見直されて、課長をやりながら組合活動をやっている」「自社の産業を発展させるトレーナーの役割を担う」「副業によって、入りたい組合を選ぶことができる」「組合員対応でAIの力を応用」「組合を通じて事業のコラボレーションを実現」「組合を通じた労働条件のデータベース構築」といった意見が出ました。

参加者からは「パネルディスカッションはユニークなコメントが多く、関心高く聞かせていただいた」「10年後と言わず今すぐにでも取り組みたいこと、ワクワクすることが多かった「色々な方の意見が聞けてイメージが膨らみました」といった声や、参加者同士の意見交換が刺激になったという意見も多くよせられました。

Point
4

今後の労働組合の役割として強化すべき活動内容は？ また新たに浮き彫りになった課題は？

2030年にどうなっているかを自由に発想いただいたこの企画ですが、パネリストの方が「労働組合法が見直されている」という予想を発表されました。現状では労働組合法の枠の中で組合活動が行われているものの、会社内の課題の対策は経営側と組合側で完全に線引きできるわけではありません。現状でも組合活動としての取り組みは多岐にわたっているので、今後は労働組合法の見直しを図り、実態に則した法整備に取り組んでいく必要があるのではないでしょうか。



パネリストのみなさんと参加者の方々と、チャットも活用しながら2030年にむけてさまざまな未来予想や意見交換を行いました。